

一般廃棄物処理施設における空間放射線量などの測定結果について

ごみ焼却施設や石積埋立処分場における空間放射線量と焼却灰等に含まれる放射性物質濃度を測定した結果をお知らせします。

【令和7年10月分】

1. 空間放射線量

(1) 測定日 10月27日～29日

(2) 測定機関 環境局施設部

(3) 測定結果

各施設の空間放射線量は、前回測定値と比べ大きな違いはありませんでした。

施設名	測定日	測定値 ($\mu\text{Sv/h}$)	
		敷地境界	灰積出場・埋立地中央
今泉工場	10月29日	0.03～0.05	0.06
葛岡工場	10月27日	0.03～0.04	0.04
松森工場	10月28日	0.04～0.04	0.07
石積埋立処分場	10月29日	0.03～0.03	0.03

* 簡易型放射線測定器：(株) 堀場製作所 PA-1000Radi を使用しています。

* 床・地表面より 100 cm の高さで測定しています。

2. 放射性物質濃度

2-1 灰の放射性物質濃度

(1) 試料採取日 10月 6日～8日 今泉・葛岡・松森

(2) 測定機関 エヌエス環境(株)

(3) 測定結果

放射性物質濃度は環境省で定める埋立基準 (8,000Bq/kg) 以下でした。

(単位 : Bq/kg)

施設名	試料	放射性セシウム Cs-134	放射性セシウム Cs-137	放射性セシウム 合計
今泉工場	混合灰 *1	不検出(30未満)	不検出(30未満)	不検出
葛岡工場	混合灰 *1	不検出(30未満)	不検出(30未満)	不検出
松森工場	焼却灰 *2	—	—	—
	集じん灰*3	—	—	—

* 1 今泉工場及び葛岡工場は、排出された主灰と飛灰を分けて貯留・搬出できる構造となつてゐないため、混合状態（混合灰）の灰を測定しています。

* 2 「焼却灰」とは「主灰」ともいい、ごみを燃やした後に残る灰のことで、焼却炉の底部から排出されます。

* 3 「集じん灰」とは「飛灰」ともいい、ろ過式集じん器などで捕集された排ガス中に含まれているダスト（ばいじん）のことです。

2-2 排ガス中の放射性物質濃度

(1) 試料採取日 10月 6日～29日 今泉・葛岡・松森

(2) 測定機関 エヌエス環境(株)

(3) 測定結果 放射性物質濃度は環境省で定める基準以下でした。 (単位 : Bq/m³)

施設名	炉	試料種	放射性セシウム Cs-134	放射性セシウム Cs-137	放射性セシウム 合計
今泉工場	1号炉	ろ紙部	不検出(0.17未満)	不検出(0.19未満)	不検出
		ドレン部	不検出(0.51未満)	不検出(0.64未満)	不検出

今泉工場	2号炉	ろ紙部	不検出(0.16未満)	不検出(0.14未満)	不検出
		ドレン部	不検出(0.49未満)	不検出(0.50未満)	不検出
	3号炉	ろ紙部	—	—	—
		ドレン部	—	—	—
葛岡工場	1号炉	ろ紙部	—	—	—
		ドレン部	—	—	—
	2号炉	ろ紙部	不検出(0.12未満)	不検出(0.17未満)	不検出
		ドレン部	不検出(0.57未満)	不検出(0.56未満)	不検出
松森工場	1号炉	ろ紙部	—	—	—
		ドレン部	—	—	—
	2号炉	ろ紙部	—	—	—
		ドレン部	—	—	—
	3号炉	ろ紙部	—	—	—
		ドレン部	—	—	—

- * 測定は稼動している焼却炉のみ実施しています。
- * 「—」の焼却炉は定期補修工事等により停止中のため測定していません。
- * () 内の数値は、測定時の検出下限値で、採取する排ガス量に左右されるため測定ごとに異なります。

2-3 放流水等の放射性物質濃度

- (1) 試料採取日 10月 2日～8日
- (2) 測定機関 エヌエス環境株
- (3) 測定結果 放射性物質濃度は環境省で定める基準以下でした。

(単位 : Bq/L)

施設名	試料	放射性セシウム Cs-134	放射性セシウム Cs-137	放射性セシウム 合計
今泉工場	再利用水	不検出(2.0未満)	不検出(2.0未満)	不検出
葛岡工場	下水道放流水	不検出(2.0未満)	不検出(2.0未満)	不検出

松森工場	下水道放流水	—	—	—
石積 埋立処分場	放流水	不検出(2.0未満)	不検出(2.0未満)	不検出
	観測井戸 1	不検出(2.0未満)	不検出(2.0未満)	不検出
	観測井戸 2	不検出(2.0未満)	不検出(2.0未満)	不検出
	観測井戸 3	不検出(2.0未満)	不検出(2.0未満)	不検出